令和８年度　第２回可児市上下水道事業経営審議会議事録

【日　時】　令和８年 10 月 30 日（金曜日）午後４時から午後５時 20 分まで
【場　所】　可児市役所　４階第３会議室
【出席者】　審議会委員 10 人、事務局９人

1. 部長あいさつ

本日はお忙しい中、令和８年度第２回可児市上下水道事業経営審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。日頃より、本市の水道事業に深いご理解と支援を賜り、誠に感謝申し上げます。

本日の審議会では、上下水道事業の令和８年度の決算状況及び経営戦略に関するモニタリング結果を説明させていただきます。

近年、物価上昇、人件費等の高騰、さらに人口減少等の影響を受け、上下水道事業の経営状況は年々厳しさを増しております。幸い、本市の水道料金は令和 10 年度まで、下水道使用料は令和 12 年度まで、現料金体系を据え置きする方針としております。しかし、全国的にはすでに値上げを実施済み、もしくは近々の実施を予定している自治体が増えております。本市においても、いずれは値上げを実施せざるをえない状況であると認識しております。

このような厳しい状況を踏まえ、委員さんの皆様には、忌憚のないご意見、ご提案を賜りますようお願い申し上げます。

2. 会長あいさつ等

【会長あいさつ要旨】
急に寒くなってきましたが、場所によっては雨が多く、反対に雨が降らずに渇水していた所もあり、人間が良い感じに雨は降らないと感じた。今回は上水道と下水道の決算の報告を受けますが、円滑に議論を進めたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

【定足数】
会長より定足数（10 名出席）を満たすことの説明

【議事録署名者】
会長より議事録署名者として岩井委員と大平委員の指名

3. 議題

以下の議題について、事務局説明と質疑応答を行った。

(1)令和７年度水道事業の決算状況について
(2)水道事業経営戦略　令和７年度決算モニタリングについて
(3)令和７年度下水道事業の決算状況について
(4)下水道事業経営戦略　令和７年度決算モニタリングについて

発言者：☆＝会長　○＝委員　●＝事務局

(1) 令和７年度水道事業の決算状況について
(2) 水道事業経営戦略　令和７年度決算モニタリングについて

●上記の議題について説明

☆概ね計画通りであり、決算も前年と大きく動いたものはないという印象を受けた。
モニタリング資料 P3 の投資有価証券について、有価証券は国債や地方債があるが、何を購入しているか。あと、現金で持っておくよりも、安全な有価証券で運用するという趣旨で購入されていると思うが、他の自治体だと６か月分や１年分の現金を手元に持っておいてそれを超えた分を運用する、またはいくらまで借金を持つという計画を立てておいて余剰を運用に回すなどしている。経営戦略には計画はなかったようだが、有価証券で投資するときの考え方があれば説明いただきたい。

●可児市で購入しているのは地方債で、国債は購入していない。大きな事故や震災により仮に１年間の収入が無かったとして、１年間分の収入を持っておくことを基準にし、そこから余剰が出た部分を投資有価証券の購入に回している。

☆今日、金利は据え置きという日銀の発表があったが、購入された地方債は 10 年ほどで償還するものか。

●10 年もあれば、５年もあれば３年もある。償還の変動を均等にするイメージで運用している。

☆金利はこれから上がるとは言いながらも、急な動きがあるかもしれないので、計画的かつルール化しながら行えると良い。

○モニタリングの総評を見ると、概ね計画通りであり、指標も順調な計画で進んでいる。有価証券について、計画に無かったが満期が来たため、新しく３億円から５億円に増やしたという理解で良いか。

●そうである。償還が来たものは同額買い、追加で２億円買っている。

○運用する度合いを大きくしたということか。今後金利が上がると、昔買った有価証券が市場に出るときに逆鞘になることがあるが、基本的には満期まで持つという考え方で良いか。

●そうである。

○管路の更新が１％前後で維持することが望まれるとのことだが、市内の事業者の請負を考え平準化していただけるとありがたい。

○管路更新率が１％前後で維持することが望まれるとあるが、なぜ１％なのか。
また、管路更新率がＲ６に大きく下がっているのはなぜか。

●モニタリング資料Ｐ６、Ｒ６の管路更新率が低いことについて説明する。Ｒ５に老朽管更新事業として、桜ケ丘地区の水道管入れ替え工事を行った。計画では翌年に愛岐ケ丘団地の管路更新事業を始めることになっていたが、Ｒ６は設計がメインとなり工事が少なくなった。愛岐ケ丘団地はＲ７から工事を開始しており、Ｒ６の管路更新率に差ができている。

●管路更新率１％前後が望ましいというのは、市の意向である。

●他市町村の水道事業者との話の中で、更新率１％を切ると有収率が下がるという経験則のようなデータがある。有収率を下げないためにも１％以上は更新していきたい。

○設計業務があったことにより、更新率が下がったということか。

●設計をメインにやっており工事ができなかった。愛岐ケ丘地区の工事はＲ７から始まり、その計画の時期であったため工事が少なくなっている。

○工事期間と設計業務は並行できないのか。

●工事をしている間に次の設計をすることが理想だが、Ｒ６は設計がメインとなってしまった。

☆職員数がボトルネックで設計と施工が並行してできなかったということか。

●そうである。

☆管路更新率が１％ということは 100 年しないと更新できないということなので、数字からするとあまり大きくはないと言われている。しかし、全国の事業者で１％超えていると

ころはほとんど無く、１％超えることを目標にしている事業者が多い。１％は、目標設定の相場としてよく使われる数字である。

〇モニタリングの総評の中で、「資本的収入は、管路工事を進めたにもかかわらず、補助金の減少が目立つ結果となりました。」とあるが、その補助金は具体的にどこからのものを指しているか。

●国の補助金である。元々水道事業は厚生労働省の所管だったが、R６から国土交通省の所管に変わった。厚生労働省所管の時は補助金の交付率が高く、要望した額に対してほぼ満額もらえたが、国土交通省に所管替えされてから、道路、河川、下水道など大きな枠の中の一つの事業になったため、交付率が低くなった。

〇水道事業は国土交通省というよりも厚生労働省の管轄ではないかと思う。

●水質などは厚生労働省所管のままだが、工事に関しては国土交通省で一括するという国の方針がある。

☆昔は綺麗な水でないと、感染症や病気で亡くなることもあったため、公衆衛生の面から厚生労働省が水道のインフラを整備していた。今は、上水も下水も広い意味でインフラを整備する工事の業務であり、その技術の保障を統一的な基盤整備の枠組みの中で行うということで所管が変わり、その関係で補助金にも影響が出たという説明である。

〇モニタリング資料の最後の総評がきれいにまとまっており、ここを読めば全て分かる。また、管路更新率を１％前後で守っていくことがすごいと感じた。

(3)令和７年度下水道事業の決算状況について
(4)下水道事業経営戦略　令和７年度決算モニタリングについて

●上記の議題について説明

☆下水道についても、概ね前年と大きく変わりはないと思う。農業集落排水事業をR６に統合した関係で、モニタリングの数字が若干読みにくくなっているが、その辺りを整理してご説明いただいた。
決算の概要Ｐ２、貸借対照表の企業債が固定負債と流動負債に分かれており、１年以内に償還すべきものが流動負債に入っていると思う。上水と比べると、流動負債にある企業債の比率が大きいが、それはなぜか。10 年程前に借り入れた企業債が、たまたまこのタイミングにこのボリュームになったという理解か。

●そうである。30 年のものが 20 年経過し、残り 10 年になる。そのような流れで、最後１年のものが多くある。

☆決算書 P29 以降に企業債明細書があり、借りた時期や金利が違う未償還のものがたくさんある。施設を作ったり、資本的支出があるような大規模な事業があったりすると、それに合わせて企業債を借りるが、その際、この明細に一行加わるというイメージである。
最近工事を行ったとして、借入れは毎年少しでもあるのか。

●昔に比べて事業が少ないため金額的には少なくなっているが、財源として借入れを行っている。

☆水道事業はほとんど無くなる勢いで償還している。下水は少なくなっているとはいえ、経年的に若干の借り入れがあるが、先ほどの説明によると、R９以降に 10 億円を下回る見通しである。施設へ投資が必要なので、企業債は比較的多めに残ると思う。最近借り入れたものを見ると、金利は昔に比べると上がっている。

○ストックマネジメント計画とはどういうものか。

●50 年、100 年と長い目で見て費用を平準化し、施設を直す計画を立てるものである。国の制度上、５年で区切り計画を立てることになっている。まずは１期目としてＲ３からＲ７まで行い、２期目としてＲ８から R12 の計画を立てた。可児市は管きょ耐震化を目的とし、計画を立て、事業を推進している状況である。

☆ストックマネジメントのストックは社会資本やインフラみたいなものである。壊れてから直すよりも平準化して計画的に行うと、総費用を下げることができるため、多くの自治体でストックマネジメント計画が立てられている。

○上水と下水は貸借対照表上でも大きく違いがある。上水は投資有価証券の購入により投資を行っているが、下水で行っていないのは何か本質的な違いがあるのか。

●下水は経営が厳しいため、ほとんど借り入れによりやりくりしていた。企業債の流動負債の割合が多いという話があったが、今は借り入れを順に返済し減らしており、現金に少し余裕が出てきた。今年度は、有価証券ではないが、定期の預入を始めている。

○下水のほうが管理費や維持費がかかるということか。

●下水は平成初めごろに急激に整備を進めたため、厳しい面がある。

〇今日の説明で、健全な事業に取り組んでいることが分かった。モニタリング資料Ｐ５の流動比率が 100%を超えていることや、現金に余裕が出てきたという話もあり安心した。
将来新しい世代になっても、今と同じような仕事ができるか心配である。

☆上下水とも、前年と大きくは変わらず、他の自治体だと下水 30、40%値上げするというニュースもある。可児市とは長い間審議会の場で関わっているが、上下水ともに県営の処理施設があるため、近々で料金改定が必要な状況ではない印象であり、他の自治体と比べて健全だと思う。引き続きこの状態を維持していただけるとありがたい。

4. その他

【今後のスケジュール等】
・委員報酬及び源泉徴収について
・今年度の審議会は今回で終了
・委員の任期は今年度末で終了

（会議終了）